



議会の開会にあたり、市長は四月から六月までの市政の経過と現状を次のように報告しました。

最重要課題として

地方拠点都市の地域指定については、南国市を中心として、香美郡八町村と共に南国・香美地方拠点都市地域指定推進協議会を設立しました。全国では先行している地域もあり、本年度の地域指定については、極めて厳しい状況にあります。

交通体系は

高知空港の整備について、第六次空港整備五カ年計画に組み入れられたことを受けて、五月二十三日、橋本県知事が市議会の空港対策特別委員会に協力要請をしました。特別委員会の結果を踏まえて、市政としての取組みについて協議しているところでありますが、今後の地元説明会の開催意向を見ながら対応に万全を期していきたいと考えています。

まちづくりは

都市計画については、市の中心市街地である後免町のまちづくりは、「市街地再開発事業」で施行すべく調査が終了したところです。調査結果によれば事業賛成者は約六十割です。今後は、小集会を積極的に開催し学習に努めまして合意形成に全力を傾けたいと考えます。そして地元準備組合設立に努力していきます。

積極的な土地利用

また、舟入川以北の駅前町は、「土地区画整理事業」としての調査が終了しました。今後は住民の皆様方との対話集会を重ね、事業の仕組や骨格道路の必要性を理解していただきます。

学校週五日制は

幼稚園、小学校、中学校の学校週五日制が、九月より第一土曜日を休業日として、月一回実施することになりました。すでに各学校では、P・A、地域社会との連携について、推進体制の取組みをしてい

六月定例

市議会

だいているところです。四月から、「南国市学校週五日制研究委員会」を発足させ、学校教育、社会教育それぞれの部会で研究し、七月には中間のまとめを出すような方向で取組んでいます。本市の学校教育はもとより、家庭教育や地域社会の教育推進のためによりよい機会としていきたいと考えています。

保健・衛生の取り組み

し尿処理施設整備事業については、市・県の都市計画審議会の決定を得た後、国への申請、平成五年度の事業化を目指します。最終処分場事業についても、地元の皆様の理解により条件面については相当者詰まりましたので、今後は移転補償用地取得の段階となっております。現在の埋立地の運用期間が残り少なくなり、これの延命対策と早い事業化が必要となっております。関係者の理解を得ながら事業を進めたいと考えています。

市勢の発展は、市民が健康でなければ望むことが出来ません。新しい事業として近年増加傾向にある大腸がん検診も導

入し、早期発見、早期治療に取組みます。歯科衛生については、六月八日から十日まで歯の無料検診を実施しました。また、802リ（ハチマルニイマル）運動、つまり八十歳で二十本以上自分の歯を持つ運動を定着させるよう、受診啓発に努めました。保健福祉センターについては用地造成が完了したので、国の承認があり次第、早期に建築に着手したいと考えています。医療費の増大と社会保険診療報酬が平均五分引上げられたことなどに伴う財源を確保する必要が生じていましたが、補助制度が改正され、「国庫財政安定化支援事業」が新設されましたので、当初は、税率改正も、やむを得ないと考えておりましたが、税率の改正は、見送ることにしました。最後に平成三年度一般会計の決算見込みについては、実収支で約九千万円の黒字です。前年度と比較すると実収支で約二千五百万円の減ですが、普通建設事業への積極的な財源充当の結果であると考えています。

地方拠点都市の地域指定へ向けて



五月三十日、南国市と周辺八町村（赤岡町・香我美町・土佐山田町・野市町・夜須町・香北町・吉川村・物部村）の市町村長や議長など約六十人が参加した南国・香美地方拠点都市地域指定推進協議会設立総会が、南国市役所で開催されました。協議会は、それぞれの商工会長や農協、漁協、森林組合の組

合長など名を連ね、住民各層の意見が反映できるような構成。発起人として大町市長が「この九市町村は以前から産業、文化、人的交流の盛んなところ。これからの広域交通体系のなか、ますます一体感が増してくるはず。共に発展していくため協力しあいましょう」と挨拶。オブザーバーとして出席した県も「法律は、社会資本の整備の遅れている地域の振興と、都市への一極集中を是正する切り札。この法律の特徴は、地域がどのようなプランを作るにかかっている。地域指定が受けられるよう、創意工夫を」と激励。その後総会が開かれ、会長に大町市長を選出、地域指定へ向けて一致協力して取り組むことなどを決議しました。地方拠点都市整備法……過度に産業業務施設が集積している地域から地方拠点都市への移転促進により、地方の自立的成長を図ることを目的とするもので、国会会で可決成立。国の六省庁と協議のうえ、知事が指定するもので、全国で五十、八十の地域が指定される予定。南国市が副県都構想を実現するのは、この地域指定を受けることが不可欠です。

空港再拡張へ

知事が、ぜひ協力をと



五月二二三日、橋本知事を
はじめ県の関係者が来庁。
大町市長ら市関係者の出席
した空港対策特別委員会（島
内委員長、松木副委員長、高
島、菊谷、森尾、吉村、山本
（弘）、紀伊、田島、北村、
西岡、福田、澤田各委員）に
出席、空港拡張の協力を要請
しました。

「県勢発展のためには高速度交
通体系の整備、なかでも空港
の整備はどうしても必要。社
会的にも、経済的にも、特に
所得水準の向上により航空機
の利用が大幅に増加している
など、県を取り巻く状況の変
化が著しく、前回の表明を変
えざるをえなくなった」と説
明。

との回答がありました。
知事よりの協力要請のあと
質疑が行われ、地権者対策、
営農対策等については、地権
者それぞれの希望に沿えるよ
うきめ細かな対応をすること、
騒音対策については、低騒音
機を導入していくなどの説明
を受けました。

最後に委員長から地元と地
権者の声を十分に聞き、誠意
をもって接するよう、県へ要
請しました。

第12回南国市民学校

《全国水平社70周年に思う》

明治政府が作られるにあたって問
題となったのが、江戸時代より続い
てきた身分制度、新政府は大江卓氏
（宿毛出身）の「人は生れながらに
して自由であり、平等である」とい
う天赋人權論を取り入れ、『解放令』
（一八七一、明治四年）を布告しま
した。これによって制度上、身分制
度は廃止されました。しかし、部落
差別は社会の中に深く根を下ろして
いたので、自分より身分の低い人
がいるということで安心していた民
衆が『解放令』に反対、各地で被差
別部落の人に対するいやがらせが激
しくなりました。身分制が制度とし
て残らなかつたことで、かえって意
識の上では強く残る結果となったの
です。

こういふ厳しい状況の中で、時代
は大正へと移ります。このころ、自
らの利益しか考えていない米世屋に
対し民衆の怒りが爆発、全国で米蔵
の打ち壊しが行われました。これに
参加していた下層民衆がやればでき
る、という自信をつけることになり
ます。

「まじ差別をされるものが立ち上
がれ」と説いていた佐野学氏のもと
に自信をつけた被差別部落の人々が
賛同、結社を乍らことになりました。
こうして一九二二（大正十一年）、
全国水平社が結成されたのです。
全国水平社結成にあたり、水平社
宣言が著されました。その考え方
は、戦時ではないんだ、慮げられて
きたことで温かい人間の血を流しつ
づけてこられた選ばれた者なんだ、
自分が被差別部落民だということ
誇りに思おう、など、これまでの考
え方より一回りも二回りも大きな視

野を持ったものでした。人間解放
の思想に立ったこの宣言は先見の
普遍的で、現在もなお学ぶべきこ
との多い文章であります。

戦後、全国水平社はなくなりま
したが、その思想は受け継がれて
います。しかし、今なお、いろん
な場所で差別は続いています。
とかく現代は豊かになったとい
われますが、果たして本当にそう
でしょうか？ 次から次へと新しい
ものが出る世の中で、一つのもの
に愛着を持つということがなくな
っています。人に対してもそうで
す。人に対する愛着、思いやりが
ないから差別が無くならないので
す。同和問題について「寝た子を
起すな」的考え方もありますが、
こういう世の中だからこそ、心を
豊かにし、人に対して真摯な態度



講師プロフィール
横山高道（よこやまよしみち）
高知大、高知女子大の講師、
四国地区大同和教育研究協議
会副委員長を歴任。現在、高知
東高校教諭。
著書に「高知県における部落
問題と同和教育」などがある。